

国語科

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて

ア	イ
・ 叙述に基づいて、文章の構成や展開を捉え、内容を読み取る力	・ 自分の考えを伝えるために、必要な情報を整理し、伝えたいことを明確にする力

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	<p>ア それぞれの文の主語と述語との関係を捉えること。</p> <p>イ 経験したことや想像したことを基にして必要な事柄を選び、自分が伝えたいことを明確にすること。</p>	<p>ア 会話や書かれた文章で主語と述語をはっきりと表現させることを意識させる。抜け落とさせない。</p> <p>イ 身近なことや経験したことを報告したり、記録したりする機会を多く取り、見聞きしたことを伝えたい思いを高め、一番伝えたい事柄を一つ表現させる。</p>	<p>ア 年間を通して実施するが、特に以下の単元で行う。 くちばし（7月） うみのかくれんぼ（10月）</p> <p>イ 年間を通して実施するが、特に以下の単元で行う。 しらせたいな、見せたいな（11月～）</p>	<p>ア 登場人物が何を言ったか、何をしたかに気を付けながら読むことができるようになった。また、「問い」の文と「答え」の文が分かるようになってきた。</p> <p>イ 書く学習を繰り返したり、短冊等を使用したりしたことにより、伝えたいことを文章にすることは、慣れてきたが、助詞や句読点を正しく使ったり、順序立てて書いたりする力が不足している。</p>
第2学年	<p>ア 叙述に即して的確に読み取ること。</p> <p>イ 始め・中・終わりの文章構成を考えたり、効果的な表現方法を工夫したりして、自分が伝えたいことを明確にすること。</p>	<p>ア 時間を表す言葉や文章の順序、理由に着目させて、登場人物の言動や筆者の考えを読み取らせる。</p> <p>イ 今週のニュースや見つけた物など身近なことを話したり書いたりする活動を取り入れ、順序や伝えたいことに気を付けながら文章を構成させたり、自分の気持ちを適切に表す言葉を考えさせたりする。</p>	<p>ア 年間を通して実施するが、特に以下の単元で行う。 お手紙（10月）</p> <p>イ 年間を通して実施するが、特に以下の単元で行う。かんさつ名人になろう（5月～）</p>	<p>ア 時間を表す言葉や文章の順序、理由に着目させたことで、登場人物の言葉や筆者の考えを読み取りやすいということが分かった。</p> <p>イ 生活科単元と関連させたことで、意欲的に取り組むことができた。また、友達の文章を読み合うことで、自分の伝えたいことが明確になり、表現方法の工夫につながった。</p>
第3学年	<p>ア 叙述を基に書き手の考えや登場人物の行動や気持ちを読み取ること。</p> <p>イ 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較・分類して、自分が伝えたいことを明確にすること。</p>	<p>ア 主語と述語、修飾語と被修飾語などの文の構成や、接続詞、文章の順序に着目させて、登場人物の言動や筆者の考えを読み取らせる。</p> <p>イ 調べたことをまとめて報告させたり、行事の案内やお礼の手紙などを書かせたりして、相手や目的を明確にした活動を取り入れる。経験したことや想像したことなどの伝えたいことを複数挙げさせた上で選択させる。</p>	<p>ア 年間を通して実施するが、特に以下の単元で実施する。 ちいちゃんのかげおくり（10月）</p> <p>イ 年間を通して実施するが、特に以下の単元で実施する。 仕事のくふうみつけたよ（7月）</p>	<p>ア 叙述を基に書き手の考えや登場人物の行動や気持ちを読み取るよう指導したことで、文章中の言葉を根拠に読み取ったり国語辞典を利用したりする習慣が身に付いてきた。</p> <p>イ 相手や目的を意識しながら書くことはできてきたが、集めた材料の比較分類の仕方がわからなかったり、どのように文章に生かしていけばよいかわからなかったりする児童が多く見られた。全体的に書く力が不足している。</p>
第4学年	<p>ア 叙述を基に書き手の考えや登場人物の行動や気持ちを読み取ること。</p> <p>イ 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較・分類して、自分が伝えたい中心を明確にすること。</p>	<p>ア キーワード、場面や段落相互の関係に着目させて、登場人物の心情や筆者の考えを読み取らせる。</p> <p>イ 調べたことをまとめて報告させたり、行事の案内やお礼の手紙などを書かせたりして、相手や目的を明確にした活動を取り入れる。中心に述べたいことを一つに絞り、構成を考えて文章を書かせる。</p>	<p>ア 年間を通して実施するが、特に以下の単元で実施する。 ごんぎつね（10月）</p> <p>イ 年間を通して実施するが、特に以下の単元で実施する。 もしものときにそなえよう（2月～）</p>	<p>ア 登場人物の心情や筆者の考えを読み取る際には叙述を基にするよう繰り返し指導したため、正確に読み取れるようになってきた。</p> <p>イ 相手や目的を意識して文章にすることはできたが、情報収集や整理・分類に関しては個人差が大きい。改善する必要がある。</p>

第5学年	<p>ア 叙述を根拠に、文章構成を捉えたり登場人物の心情や登場人物同士の関係性を捉えたりして主題や要旨を読み取ること。</p> <p>イ 相手や目的に応じて、感じたことや考えたことなどから集めた材料を整理し、自分が伝えたい意図を明確にすること。</p>	<p>ア 場面や段落相互の关系到着目させて、場面や段落ごとの要旨をまとめさせる。</p> <p>イ 事象を説明したり、意見を述べたりする活動を通して、考えたことや伝えたい意図が明確になるように事柄を選んで構成し、文章を書かせる。</p>	<p>ア 年間を通して実施するが、特に以下の単元で実施する。 たすねびと（10月） 大造いさんとガン（2月）</p> <p>イ 年間を通して実施するが、特に以下の単元で実施する。 グラフや表を用いて書こう（11月～）</p>	<p>ア 叙述から人物像を丁寧に読み取ったことで、中心人物の心情の変化や考え方を正確に読み取ることができた。文末表現や接続語などに注目させたことも効果的だった。</p> <p>イ 叙述やグラフなどから筆者の主張を正確に読み取った上で、自分の考えを、構成を意識して書くことができた。一方で、目的に沿って資料を準備したり、材料を整理して伝えたりといった活動や、話し合い活動には時間をあまり避らず、課題が残った。</p>
第6学年	<p>ア 叙述を根拠に、文章構成を捉えたり登場人物の心情や登場人物同士の関係性を捉えたりして主題や要旨を読み取ること。</p> <p>イ 相手や目的に応じて、感じたことや考えたことなどから集めた材料を整理し、自分が伝えたい意図を明確にすること。</p>	<p>ア 場面や段落相互の关系到着目させて、場面や段落ごとの要旨をまとめさせる。</p> <p>イ 事象を説明したり、意見を述べたりする活動を通して、考えたことや伝えたい意図が明確になるように事柄を選んで構成し、文章を書かせる。</p>	<p>ア 年間を通して実施するが、特に以下の単元で実施する。 海の命（1月～）</p> <p>イ 年間を通して実施するが、特に以下の単元で実施する。 人をひきつける表現（1月）</p>	<p>ア 人物相関図を活用したり、心情の変化を表にしたりしたことで、登場人物同士の大きな関係性を捉えることはできたが、語彙が不足していることで正しく読み取れない児童もいる。</p> <p>イ 伝えたいという自分の思いをもつことで必要性を感じながら伝えることはできたが、相手を意識して、質問に対する返答を用意したり、自分の主張が伝わりやすくなるように効果的な資料を準備をしたりするなど、丁寧に計画することには課題が残った。</p>

<p>■主体的・対話的な学習活動について</p> <p>1年 ペアやグループで、自分が考えたことなどを伝え合う活動を行う。</p> <p>2年 ペアやグループで、自分が考えたことなどを伝え合う活動を行う。</p> <p>3年 様々な形態で自分が考えたことなどを話し合う活動を行う。</p> <p>4年 自分が考えたことや読み取ったり調べたりしたことなどを話し合う活動を行う。</p> <p>5年 視点を明確にした話し合い活動を行う。</p> <p>6年 視点を明確にした話し合い活動を行う。</p>	<p>■授業の終末の工夫</p> <p>1年 授業のめあてを振り返り、分かったことや感想などを発表させる活動を行う。</p> <p>2年 授業のめあてを振り返り、分かったことや感想などを発表させる活動を行う。</p> <p>3年 授業のめあてを振り返り、意見の交流を通して、様々な意見があることに気付かせる活動を行う。</p> <p>4年 授業のめあてを振り返り、意見の交流を通して、一人一人の感じ方の違いに気付かせる活動を行う。</p> <p>5年 授業のめあてに対して、自分の取組を振り返る活動を行う。</p> <p>6年 授業のめあてに対して、自分の取組を振り返る活動を行う。</p>
---	---

社会科

社会科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて

ア	イ
・問題解決に必要な情報を集め、読み取る力	・考えたことや選択・判断したことを表現する力

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第3学年	<p>ア 資料から必要な情報を読み取ること。</p> <p>イ 相手に分かるように自分の考えを表現すること。</p>	<p>ア 写真資料や地図などの視覚的な教材を活用する。観察や見学などの調査活動を行う。</p> <p>イ 自分の考えを絵地図や図表に表現させる。自分の考えを説明する時には理由を明らかにさせる。</p>	<p>アイ わたしたちのまちのしごと・安全な暮らしをまもる</p>	<p>ア 各単元で視覚的な教材を使ったり観察や見学などの調査活動をする中で、資料や調査結果から必要な情報を得ることができると気づき、学習に生かすことができた。</p> <p>イ 自分の考えをもち、理由を明らかにしながら説明することはできてきた。しかし、絵地図や図表に表現する活動については、表現方法の習得がまだ十分でない。</p>
第4学年	<p>ア 資料から必要な情報を読み取り、資料に表されている事柄の全体的な傾向を捉えること。</p> <p>イ 事実に基づいて自分の考えをもち、根拠を明らかにして表現すること。</p>	<p>ア 写真資料やグラフなどの視覚的な教材を活用する。資料を読み取るポイント（方位・表題・年次・縦軸・横軸など）を明示する。</p> <p>イ 自分の考えを図表や地図、文章などで表す際に、根拠を明らかにさせる。</p>	<p>アイ 住みよいくらしをつくる・私たちの東京都</p>	<p>ア 各単元で資料を読み取る活動を取り入れたことで読み取るポイントを基に、全体的な傾向を捉えられるようになってきた。</p> <p>イ 自分の考えをもち、根拠を明らかにして表現することに関しては課題が残る。何を基にどのように考えればよいのか明示したり例示したりして、表現の仕方を学ばせる必要がある。</p>
第5学年	<p>ア 複数の資料を関連付けて読み取ること。</p> <p>イ 根拠や解釈を示しながら、論理的に自分の考えを表現すること。</p>	<p>ア 資料相互の関係に注目させたり、比較させたりして、読み取れる情報の違いや共通点に気付かせる。</p> <p>イ 資料から読み取った事実を基に、論理的に文章や関係図などで表現させる。関連する別の事実にも気付かせる。</p>	<p>アイ 年間を通して実施するが、特に以下の単元で行う。 わたしたちの生活と工業生産・食料生産とわたしたちの生活</p>	<p>ア 各単元で資料相互の関係に注目させたり、比較させたりして読み取る際のポイントを指導することで、複数の資料を関連付けて読み取ることができるようになってきた。</p> <p>イ 資料から読み取った事実をもとに、論理的に文章や関係図などで表現させる手立てを指導することで、根拠を示しながら自分の考えを表現することができるようになってきた。分かりやすい表現方法を学ばせる必要がある。</p>
第6学年	<p>ア 資料の背景となる事象や原因などを読み取ること。</p> <p>イ 様々な事象を関連させて、論理的に自分の考えを表現すること。</p>	<p>ア 問いに対して予測を立てた上で、自分の考えと比較しながら読み取らせる。複数の情報の関係性を捉えさせることで、多面的・総合的に読み取らせる。</p> <p>イ 社会的事象の意味について、文章や関係図、年表などで表現させる。互いの立場や根拠を明らかにして、結論を導かせる。</p>	<p>アイ 日本の歴史・わたしたちの生活と政治</p>	<p>ア 複数の資料から必要なことを読み取ることはできたが、時代背景を理解することが難しかった。</p> <p>イ 文章や関係図、年表などを使って、時代ごとに社会的事象をまとめることができたが、話し合い活動ができなかったため、互いの立場や根拠を明らかにして、結論を導くことはできなかった。</p>

■主体的・対話的な学習活動について

3年 様々な形態で考えたことや分かったことなどを伝え合う活動を行う。

4年 調べたことやまとめたことなどを話し合う活動を行う。

5年 自分の考えを説明する、理解し合うなどの話し合い活動を行う。

6年 自分の考えを説明する、理解し合うなどの話し合い活動を行う。

■授業の終末の工夫

3年 学習過程を振り返り、次時への見通しをもたせる活動を行う。

4年 学習過程を振り返り、次時の学習問題を考える活動を行う。

5年 学習問題を振り返り、授業のまとめを学級全体で確認する活動を行う。

6年 学習問題と本時に学習したことを振り返り、授業のまとめを学級全体で確認するとともに、次時の問題を考える活動を行う。

算数科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて

ア

イ

・四則計算を速く、正確に行う力。

・必要な情報を読み取り、自分の考えを筋道立てて説明する力。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて等	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	<p>ア 繰り上がりのある加法、繰り下がりのある減法を速く、正確に計算すること。</p> <p>イ 問題文を正確に読み取り、聞かれていることを説明すること。</p>	<p>ア 具体的に操作する活動を十分に行う。単元の学習が終わった後にも、計算ドリルやベーシック・ドリルを活用し、反復学習をする。東京ベーシック・ドリル②・③や診断シート、総合的評価等を用いて評価する。</p> <p>イ 何を問われているのかを読み取る力をつけるため、文章題に多く取り組ませる。問われていることと分かっていることに色分けをして下線を引く。東京ベーシック・ドリル⑤や診断シートを活用する。授業中の発言、ノートでの説明を評価する。</p>	<p>ア 年間を通して実施するが、特に以下の単元で行う。 たし算とひき算（10月～）</p> <p>イ 年間を通して実施するが、特に以下の単元で行う。 図をつかってかんがえよう（1月～）</p>	<p>ア 問題に関する実物を見せたり、操作させたりしたことで、計算の手順を理解し、答えを導くことができるようになったが、処理速度等の個人差が大きい。数についての感覚を豊かにしていく必要がある。</p> <p>イ 必要な数字や演算決定のための言葉を繰り返し押さえるとともに、手立てを実施したことで、正しく立式できる児童が増えた。問題づくりには、課題が残った。</p>
第2学年	<p>ア 加法・減法・乗法の意味を理解すること。乗法九九を速く正確に唱えること。</p> <p>イ 問題文を正確に読み取り、立式を説明すること。</p>	<p>ア 具体的に操作する活動を十分に行う。単元の学習が終わった後にも、計算ドリルや東京ベーシック・ドリル③・④・⑤や診断シート、総合的評価等を用いて評価する。</p> <p>イ 何を問われているのかを読み取る力をつけるため、文章題に多く取り組ませる。問われていることと分かっていることに色分けをして下線を引く。既習事項を用いて、図や式など自分の考えをノートにまとめる機会を増やす。東京ベーシック・ドリル⑥や診断シートを活用する。授業中の発言、ノートでの説明を評価する。</p>	<p>ア 年間を通して実施するが、特に以下の単元で行う。 たし算とひき算のひっ算（9月～）・かけ算（10月～）</p> <p>イ 年間を通して実施するが、特に以下の単元で行う。 たし算とひき算のひっ算（4月～） 図をつかってかんがえよう（2月～）</p>	<p>ア 具体的に操作をしたことで、繰り上がりや繰り下がりの意味を理解することができた。</p> <p>イ 問われていることや分かっていることをきちんと区別させることで、問題を解くことができたが、より多くの問題に触れさせ、繰り返し取り組むことが必要である。</p>
第3学年	<p>ア 加法・減法・乗法・除法の意味を理解し、確実に計算すること。</p> <p>イ 問題文を正確に読み取り、自分の考えを説明すること。</p>	<p>ア 加法・減法・乗法・除法の入り混じった問題に授業の始めの時間や家庭学習等で定期的に取り組ませる。東京ベーシック・ドリル②・③・④・⑤を用いて反復練習させる。診断シート、総合的評価等で評価する。</p> <p>イ 何を問われているのかを読み取る力をつけるため、文章題に多く取り組ませる。問われていることと分かっていることに色分けをして下線を引く。説明の語形を示し、考えを書くことへの抵抗を減らす。東京ベーシック・ドリル①②や診断シート</p>	<p>ア 年間を通じて実施するが、特に以下の単元で行う。 かけ算の筆算を考えよう（9月～）</p> <p>イ 年間を通じて実施するが特に以下の単元で行う。 口を使って場面を式に表そう（1月～）</p>	<p>ア 練習問題をした直後は理解度が高く、総合的評価でも高得点を取れているが、時間が経つと忘れてしまう傾向がある。継続して取り組む必要がある。</p> <p>イ 手立てを実施したことで、問題を正確に把握できる児童が増えた。しかし、式を言葉に言い換えたり、自分の考えを説明したりすることに関しては課題が残った。</p>

		を活用する。授業中の発言、ノート、ワークシートでの説明を評価する。		
第4学年	<p>ア 4位数までの乗法、3位数までの除法を正確に計算すること。</p> <p>加法、減法において、桁数が増えても繰り上がりや繰り下がりを正確に行うこと。</p> <p>イ 問題文や図、グラフから正確に情報を読み取り、自分の考えを説明をしたり、問題を解決したりすること。</p>	<p>ア 筆算の方法を繰り返し確認し、2位数より大きい数の乗法、除法の反復練習を行う。東京ベーシック・ドリル③・④や診断シート、総合的評価等を用いて評価する。</p> <p>正確にできるようになるまでは、繰り上がりや繰り下がりのメモを筆算式の決められた場所を書くように指導する。</p> <p>東京ベーシック・ドリル⑥・⑦や診断シート、総合的評価等を用いて評価する。</p> <p>イ 問われていることと分かっていることに色分けをして下線を引く。問題を解決するために数直線や言葉の式、絵や図などに表しながら立式させ、自分の考えを筋道立てて説明させる。ノートや発言を通して評価する。特に、自力解決の場面で、他者の考えに触れて考えを再構築しているかを中心に見取っていく。</p>	<p>ア 年間を通して実施するが、特に以下の単元で行う。計算のきまり（10月～）・小数のかけ算とわり算（1月～）年間を通して実施するが、特に以下の単元で行う。計算のきまり（10月～）・小数のしくみ（11月～）</p> <p>イ 年間を通して実施するが、特に以下の単元で行う。面積のはかり方と表し方（11月～）・変わり方調べ（12月～）</p>	<p>ア 単元の時数を増やし、反復練習の時間を設けたことで、乗法、加法、減法を正確に行える児童が増えた。しかし、除法においては個人差が大きく、定着がはかれたとは言えない。</p> <p>イ 手立てを実施したことで、文章題だけでなく、グラフ等からも正確に情報を読み取れるようになってきた。しかし、積極的に発言したり、自分の考えを筋道立てて説明したりすることに関しては課題が残った。</p>
第5学年	<p>ア 小数の乗法・除法を正確に計算すること。計算のきまりに即して正確に計算すること。</p> <p>イ 問題文や図、グラフから正確に情報を読み取り、自分の考えを説明をしたり、問題を解決したりすること。立式と自分の考えを結びつけて筋道立てて説明すること。</p>	<p>ア 授業開始時に、計算のきまりの適用問題を行う。また、家庭学習などで小数の乗法・除法などを復習する機会を設定する。東京ベーシック・ドリル⑧・⑨・⑪・⑫や東京ベーシック・ドリル診断シート、総合的評価等を用いて評価する。</p> <p>イ 問われていることと分かっていることなど、必要な情報に下線を引く。問題を解決するために数直線や言葉の式、絵や図などに表しながら立式させ、自分の考えを筋道立てて説明させる。ノートや発言を通して評価する。特に、自力解決の場面で、他者の考えに触れて考えを再構築しているかを中心に見取っていく。</p>	<p>ア 年間を通して実施するが、特に以下の単元で行う。小数のかけ算（5月～）小数のわり算（6月～）・分数と小数、整数の関係（9月～）</p> <p>イ 年間を通して実施するが、特に以下の単元で行う。面積（11月～）・単位量あたりの大きさ（11月～）・割合（12月）</p>	<p>ア 計算のしかたや順序は理解しているが、正確に行える児童は少ない。特に、除法においては定着があまり見られない。</p> <p>イ 問題を解決するための手立てを丁寧に指導することで、自力解決できる児童が増えた。友達の考え方から、視野を広げたり考えを深めたりすることができる児童が増えた。しかし、説明する力は個人差が大きい。</p>
第6学年	<p>ア 分数の加法・減法および小数の混じった乗法・除法、通分や約分、単位変換を正確に計算すること。</p> <p>イ 問題文や図、グラフから正確に情報を読み取り、自分の考えを説明をしたり、問題を解決したりすること。また、立式と自分の考えを結びつけて筋道立てて説明すること。</p>	<p>ア 正確な計算や単位変換ができるように、朝学習や授業開始時に適用問題を行う。東京ベーシック・ドリル⑪・⑫や診断シート等を用いて評価する。</p> <p>イ 問われていることと分かっていることなど、必要な情報に下線を引く。問題を解決するために数直線や言葉の式、絵や図などに表しながら順序立てて情報を整理することで問題を把握し、立式させる。また、自分の考えを筋道立てて、説明させる。ノートや発言を通して評価する。特に、自力解決の場面、他者の考えに触れて考えを再構築しているかを中心に見取っていく。</p>	<p>合 年間を通して実施するが、特に以下の単元で行う。分数のかけ算（5月～）・分数のわり算（6月～）</p> <p>イ 年間を通して実施するが、特に以下の単元で行う。拡大図と縮図（9月～）比例と反比例（11月～）・並べ方と組み合わせ方（12月～）</p>	<p>ア 練習問題をした直後は理解度が高く、総合的評価でも高得点を取れているが、時間が経つと学習したことが混ざってしまう傾向がある。継続が必要である。</p> <p>イ 数直線等を活用する手立てを知り、問題を正確に把握できる児童が増えた立式も正確にできるが、自分の考えを筋道立てて説明することには課題がある。</p>

■主体的・対話的な学習活動について

- 1年 ペアやグループで自分の考えなどを伝え合う活動を行う。
- 2年 ペアやグループで自分の考えなどを伝え合う活動を行う。
- 3年 自分の意見をペアやグループで説明した後、学級全体での話し合い活動を行う。
- 4年 自分の考え方を説明し、他者の考え方を知る活動を行う。
- 5年 自分の考えを説明する、理解し合うなどの話し合い活動を行う。
- 6年 自分の考えを説明する、理解し合うなどの話し合い活動を行う。

■授業の終末の工夫

- 1年 授業のめあてを振り返り、分かったことや感想を発表させる活動を行う。
- 2年 授業のめあてを振り返り、分かったことや感想を発表させる活動を行う。
- 3年 学習内容を振り返り、感想を書かせたり、よい意見に気付かせたりする活動を行う
- 4年 学習内容を振り返り、それぞれの考え方のよさに気付かせる活動を行う。
- 5年 授業のめあてに対して、自分の取組を振り返る活動を行う。
- 6年 授業のめあてに対して、自分の取組を振り返る活動を行う。

理科

理科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて

ア	イ
・問題解決の学習過程に沿って学習を進める力	・自然の事物・現象と生活経験や学習経験を関係付ける力

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第3学年	<p>ア 事象を比較し、差異点や共通点が起きた要因から問題をつくること。</p> <p>イ 生活経験を基に、事象の差異点を見いだしたり自分の問題に対する仮説を立てたりすること。</p>	<p>ア 差異点や共通点が明確になる事象提示を行う。</p> <p>イ 導入時に、全員の児童が学習する事象を解釈するために、必要な事象を共通体験する活動を取り入れる。</p>	<p>年間を通して実施するが、特に以下の単元で実施する。</p> <p>ア 豆電球にあかりをつけよう・磁石の性質</p> <p>イ 地面のようすと太陽・太陽の光</p>	<p>ア 事象提示を工夫したことで、それが児童の問題づくりに結びついた。また、問題づくりから仮説・実験結果・考察までの学習過程も身に付きつつある。</p> <p>イ 影踏み遊びや的あて遊びの活動をし、気持ちを話し合うことで学習意欲を高めることができた。また、問題を見出すきっかけともなった。</p>
第4学年	<p>ア 第3学年に加え、根拠を明確にして自分の問題に対する仮説を立てること。</p> <p>イ 自分の問題に対する仮説を設定する際に、これまでの生活経験や学習経験と結びつけること。</p>	<p>ア 第3学年に加え、根拠となり得る生活経験や学習経験を想起させる場面を設定する。</p> <p>イ 既習の内容や生活経験を想起させる場面を設定する。</p>	<p>ア・イとも年間を通して実施するが、特に以下の単元で実施する。</p> <p>電池のはたらき・とじこめた空気や水・ものの温度と体積・もののあたたまり方・すがたをかえる水</p>	<p>ア・イとも学習経験を生かすことはできてきたが、生活経験の乏しさが目立ち、生活に結びつけて考えられていない。特にものの温度と体積では顕著だった。</p>
第5学年	<p>ア 第3、4学年に加え、条件を制御して自分の仮説を検証する実験方法を計画すること。</p> <p>イ 自分の問題に対する仮説を設定する際に、これまでの生活経験や学習経験と結びつけること。</p>	<p>ア 第3、4学年に加え、変える条件と変えない条件を実験計画に明記させる。</p> <p>イ 既習の内容や生活経験を想起させる場面を設定する。</p>	<p>ア・イとも年間を通して実施するが、特に以下の単元で実施する。</p> <p>植物の成長・ふりこ・ものどけかた</p>	<p>ア 条件の制御を明記することで、自分の仮説を検証する実験方法を考えられるようになってきたが、変えない条件の設定が曖昧なことが多かった。</p> <p>イ 既習の内容を想起して仮説を設定することはできたが、生活経験が十分ではなく結びつけて考えることができていない。</p>
第6学年	<p>ア 第3～5学年に加え、自分の仮説を検証した結果を考察し、結論を導くこと。</p> <p>イ 考察の際、仮説に対して実験結果を整理したり、問題に対して結論を導き出ししたりすること。生活経験や学習経験と関係付けて考察したり、結論から新たな問題や日常生活との関わりについて考えること。</p>	<p>ア 第3～5学年に加え、自分の仮説を検証するための実験結果の予想を明記させる。</p> <p>イ 考察の型を提示したり手本となる児童の考察を紹介したりする。</p>	<p>ア・イとも年間を通して実施するが、特に以下の単元で実施する。</p> <p>燃焼の仕組み・水溶液の性質・電気の性質とその利用</p>	<p>ア 実験結果とその考察（推論）をもとに、確からしい結論を導くことができた。</p> <p>イ 考察の際、仮説に対して実験結果を整理したり、問題に対して結論を導き出ししたりすることはできた。生活経験や学習経験と関係付けて考察したり、結論から新たな問題や日常生活との関わりについて考えることは、考察で主体的に見付けることができる児童とそうでない児童の差が激しかった。</p>

■主体的・対話的な学習活動について

- 3年 自分と相手の意見とを比較し、相違などを考えながら意見を交流し合う活動を行う。
- 4年 自分と相手の意見とを比較し、相違などを考えながら意見を交流し合う活動を行う。
- 5年 仮説設定、考察過程での議論を重視し、言葉や図表などによる説明を通して学級全体の考えを構成する。
- 6年 仮説設定、考察過程での議論を重視し、言葉や図表などによる説明を通して学級全体の考えを構成する。

■授業の終末の工夫

- 3年～6年 自分の問題や仮説を振り返りながら、実験の結果を考察し、結論を導き出す活動を行う。